

### ③ 中村のたぬき

脚本：原 勝美 (下新田) 絵：櫻井 智代 (西耕地)

中村は、御陣屋や郷倉<sup>ごうくら</sup>が有ったり、名前が表すように今井の中心でした。そんな今井の中心がまだ林や森だった頃のお話です。最近、鳥獣の被害に頭を痛めています、獣と人間が棲み分けを行い共存していた頃のお話です。

たぬきときつねはよく比較されます。きつねはずる賢く、たぬきはお人よしと言われます。きつねの顔は細く鋭く見えますが、同じ犬科でも顔が丸く、ずんぐりとした容姿のたぬきの方が好感が持たれます。このたぬきがお腹をふくらまし過ぎて、破裂してしまうお話は日本全国に伝わっていますが、たぬきは非常に気の小さい動物で、驚くと気絶してしまうそうです。これがたぬきの化ける話の要因と言われます。かってお人好しのたぬきの住んでいた森も、あちこちにお宮の森やお墓の林を残すのみとなりました。



前号に続き、「今井ふるさと歌留多の会」を中心に制作された紙芝居を紹介いたします。小学校の授業の中でも使われたりして、子どもたちは読み聞かせをしているおとなたちよりも良く物語を知っています。この子どもたちが将来へ語り継いでくれたらいいと思っています。

子どもに伝えたい  
今井昔話が紙芝居になりました②



No.328

今井公民館  
館報編集委員会  
電話 59-2001  
FAX 59-1004

### ⑤ ちごちごの花

脚本：篠田 陽 (野口) 絵：桃井枝里子 (南耕地)

おきな草の事を「ちごちご」といいます。以前は何処でも見られたごく普通の花でしたが、最近ではめっきり目にしなくなりました。可憐な花は幼い子供 (稚児) を、白い毛のついた種子は老人の頭にたとえられ花は翁草と呼ばれます。肩を寄せ合い、助け合って生きて来た人々も、少し生活が上向くと、他を妬み、私欲に走り争うのが、人の世の悲しい宿命なのでしょうか。この物語は「ノア方舟」の神の怒りに触れた人々を思わせます。しかし人間は花一輪にも生存の意義を見つけ、一から出直す逞しさを持っています。

人の真の優しさとは、そして親子の絆とは、そんな思いでこの紙芝居を見て頂ければ幸いです。



### ④ 横出が崎のお夏さま (大根畑)

脚本：篠田 陽 (野口) 絵：福祉ひろばコーディネーター

今井が大根漬けの工場で繁栄した時期がありました。最盛期には十数ヶ所の工場が操業し、関西方面からも人夫が集まり、村は活況を呈し、南耕地、藤岡の交差点付近は料理屋さんが軒を連ね、芸者置屋、カフェ、パチンコ屋さん、銭湯までありました。そんな今井じゅうに大根畑が有った頃のお話でしょうか。

第一作と同じ、我らが「お夏さま」が、高慢ちきな若者の鼻をあかす爽快な物語です。いつの世にも、おのれの知識をひけらかす鼻持ちならない御仁がおられます。落語にも知恵者気取りの男に腐った豆腐を食べさせる話が有りますが、為政者に手も足も出ない庶民は、何時の世も何時の世も、ヒーローの出現を待っています。そんな心の中で「お夏さま」は語り継がれ、何時までも生き続けています。



今井昔話の紙芝居が  
絵本になりました

「今井ふるさと歌留多の会」が制作した、今井昔話の紙芝居5作が絵本になりました。子どもからおとなまで親しみを持って楽しく今井の昔話を知ることが出来ます。

絵本は公民館図書室、保育園、小学校、児童センターに置いてあります。公民館では貸し出しもしています。

歌留多の会では、子どもを始めとしてひとりでも多くの方に読んでもらいたいと願っています。



今井地区文化財調査報告書  
がCDになりました

「今井地区文化財調査報告書」(非売品)の冊子がパソコン閲覧用にCD化されました。ワンクリックで個々の文化財データが開けます。

公民館にて千円で販売しています。購入、使用方法等、問い合わせは公民館まで。



今井地区防災学習講座  
被災の現実と支援の場づくり

2月5日(日)15人の参加者が、森永敦子さん(手をつなぐ3・11信州代表)の講演を聴きました。

阪神淡路大震災と東日本大震災の両方を経験された森永さんは、日常における身の回りの点検・災害直後の被害を拡大させないための行動・避難所では一番弱い方が優先されるルール・情報を読み取る力を養うことの大切さを話してくださいました。

参加者からの、避難所の立ち上げや継続的な運営についての質問が出され答えていただきました。



No.265

「ガラケイ。とつぶやく」

中村 静子 (公園西)

そもそも全ての人がスマホを使おうと私はガラケイ使い続けてやる。と豪語していたのは昨年だったか？

調べものは図書館に行き、時間をかけて答えが見つかるための資料探しをする。それで一日の大半を使ってしまう。たとして、それはそれで充実した時を過ごさせていたよう

今、今井地区で大災害が起これば、私たちはどのような行動したらよいのか、ひとりひとりが心に留めておかなければならないと感じました。

民族の違いを超えて友情を育んだ  
浅川伯教・巧兄弟資料館を訪ねて

3月4日(土)に今井地区人権啓発推進協議会主催による視察研修が行われました。バスは資料館のある、山梨県北杜市高根町へ一路向かいました。

参加者21人の皆さんは、当館の澤谷滋子館長から一時間にわたる心のこもった説明を熱心に聞き入っていました。日本の植民地統治下の朝鮮

半島に渡り、朝鮮工芸の美に惹かれた浅川兄弟。兄伯教は陶磁器の窯跡調査に東奔西走、弟巧は山野の緑化に精力的に取り組まれました。

朝鮮の工芸や人々をこよなく愛した二人。その時代に人としての確かな目線を持ち、素晴らしい文化を守り、そこに住む人々と心から分かち合えた日本人がいたのですね。帰りのバス中でも、なぜか私の心は温かく、学ぶことがたくさんあったな...と思う充実感たつぷりの研修会でした。

機会がありましたら是非訪ねてください。巧は朝鮮に骨を埋め、今もお人々に愛されています。

図書館が好き。物語が好き。言うなら「紙」が好き。文字は紙にくっついていてこそでしよ。と思う。

それでも、そんな私が今やラインで可愛い孫の画像をやりとりしている。いつの間にか？

これって、すっかり時代の波に取り込まれていますかね。

今年六十歳。とつぶやく。アナログ嗜好はそのままに、スマホで「還暦」を検索。

今井地区人権啓発推進事業  
楽団「ケ・セラ」コンサート

3月5日(日)今井改善センターにおいて、20人程の聴衆が集まり、知的ハンディーを乗り越えた若者たちで構成された楽団「ケ・セラ」のコンサートが開催されました。

毎回心に響く演奏を披露してくれるケ・セラ。団員は全員で17人。今回は11人が、なじみのある「上を向いて歩こう」を含め全14曲。ソロ演奏あり、歌あり、とても楽しく心温まるステキなコンサートになりました。団員は「楽しいことは音楽ができること」「辛いことはない」と言い切ります。

代表の中西さんは「障がいのある人が音楽を職業とすることが、まだまだ認めてもらえないことが課題だ」と言います。

団員を多く輩出して、いる松本養護学校は、現在270人余りの児童・生徒が学んでいます。

縁のある今井の人々が学校そして「ケ・セラ」を応援してあげたら良いですね。機会があれば、ケ・セラの演奏を聴きましよう。是非。

